令和4年度「東京都環境影響評価審議会」第一部会（第5回）議事録

■日時 令和4年8月16日（火）午前10時00分～午後0時34分

■場所 WEBによるオンライン会議

■出席委員

柳会長、齋藤第一部会長、荒井委員、奥委員、玄委員、小林委員、堤委員、平林委員、水本委員、森川委員、横田委員

■議事内容

1 環境影響評価書案に係る総括審議

（仮称）神宮外苑地区市街地再開発事業

⇒ 総括的事項及び項目別事項（騒音・振動、生物・生態系、生物・生態系 景観共通、風環境、景観、自然との触れ合い活動の場及び廃棄物）に係る委員の意見について、指摘の趣旨を答申案に入れることとした。

総括審議の結果、答申案について全会一致で総会へ報告することとした。

令和4年度「東京都環境影響評価審議会」
第一部会（第5回）総会
速 記 録

令和4年8月16日（火）
Webによるオンライン会議

(午前 10 時 00 分開会)

○藤本政策調整担当部長 それでは、定刻になりましたので、東京都環境影響審議会第一部会を開催いたします。

本日は、御出席をいただきましてありがとうございます。 それでは、本日の委員の出席状況について、事務局から御報告申し上げます。

現在、委員 12 名のうち 11 名の御出席をいただいております、定足数を満たしております。

それでは、これより、令和 4 年度第 5 回第一部会の開催をお願いいたします。なお、本日は傍聴の申し出がございます。

部会長、よろしくをお願いいたします。

○齋藤第一部会長 会議に入ります前に、本日は、傍聴を希望する方がおられます。なお、本会議の傍聴は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Web 上での傍聴のみとなっております。

それでは、傍聴人の方を入室させてください。

(傍聴人入室)

○藤本政策調整担当部長 傍聴人の方、入室されました。

○齋藤第一部会長 それでは、ただいまから第一部会を開催いたします。

本日の会議は、次第にありますように、「(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る総括審議、その他となります。

○齋藤第一部会長 それでは、次第 1 の「(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る総括審議を行います。

今回は総括審議ということですが、「生物・生態系」等の項目に関する補足説明を事業者から受けたいと思いますので、事業者の方に御出席いただきます。

事業者の方は入室してください。

(事業者入室)

○齋藤第一部会長 事業者の方には本日もおいでいただきありがとうございます。よろしくをお願いいたします。

本日の流れですが、最初に事務局から前回の審議内容について説明していただきます。

その後、事業者から「生物・生態系」等の項目に関する補足説明を受けたいと思います。

説明の後、事業者に対する質疑を行いまして、事業者質疑が終わりましたら、事業者は退席

していただき、総括審議を行います。

それではまず、事務局から前回の審議内容について説明をお願いいたします。

○藤本政策調整担当部長 それでは、資料 1-1 を御覧ください。過去 5 回の部会における審議内容を整理したものになります。

各委員からの御指摘、質問事項等、それに対する事業者の説明等、環境影響評価項目ごとに並べております。そのうち、取扱い欄に 5/26 と記載のある前回の部会で質疑等があったもののうち、主なものについて要約して内容を御説明いたします。

まず、9 ページから 10 ページまで。生物・生態系の番号 1 につきまして、緑や生態系のネットワークについて質疑がありました。

17 ページから 19 ページまで、生物・生態系の番号 2 については、樹木の伐採本数の決め方についての質疑や移植の可能性について、毎木調査等のデータがないと客観的な審議ができないなどの意見がございました。

21 ページから 22 ページまで、生物・生態系の番号 3 については、いちよう並木のイチョウの根の状態に対してどのような工法を使い、守られるのか技術的な観点から考え方を示してもらいたいなどの意見がありました。

事務局からの説明は以上になります。

ただいま御説明した内容につきましては、その後、事業者から補足説明を用いて説明がございました。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。後ほど補足説明があるということですが、今御説明があった資料 1-1、前回の質疑応答の内容につきまして、修正等がございましたら御発言をお願いしたいと思います。なお、発言される際には、最初にお名前をお願いいたします。

なお、事業内容や評価書案に関する質問については、この後の事業者の方との質疑応答のときをお願いいたします。

いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、特にないようですので、「生物・生態系」等の項目に関する補足説明を事業者から受けたいと思います。事業者の方は説明をお願いいたします。

○事業者 事業者の代表者の三井不動産でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

これまでの審議会、特に前回の御指摘を踏まえまして、説明資料をご準備させていただき

ました。既存樹木の取扱いや文化交流施設棟周辺での樹林地の再生、いちよう並木の保全について追加検討を行った結果を、資料に反映させていただいておりますので、ご審議のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、説明資料につきまして三井不動産及び日建設計より説明をさせていただきます。少しお時間いただきますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事業者 まずは日建設計より説明させていただきます。

今映している資料ですけれども、審議会の補足資料になります。審議会の補足資料の1ページでございます。

初めに樹木について説明いたします。ここでは1つ目、既存樹木について、2つ目、詳細調査を踏まえた伐採本数の再検討について、3つ目、新植によるさらなる植栽について、4つ目、設計・施工による対応について、5つ目、伐採樹木の利活用について御説明いたします。

まず初めに、1)の既存樹木についてでございます。表8.6-30(1)を御覧ください。

これは2019年の毎木調査結果をもとに作成したものです。毎木調査結果の詳細については、別途リストに整理しております。伐採本数971本ということになっています。これは15年という事業期間中の安全管理・維持のための伐採、「枯損木」として、311本を含んでいる数字になっております。この971本の中には枯損木311本を含んでいるという本数でございます。

次に、表8.6-30(2)を御覧ください。枯損木311本を考慮しない、今回の計画による樹木の取扱本数を示しております。

現況建物等、構造物解体に支障する樹木や、計画建築物の建築に際し支障となる樹木のうち、移植が難しいと樹木医が判断したものについて伐採としました。

①、②、③とございますけれども、1つ目でございます。樹高や目通りが大きいもの、これは概ね樹高12m超の樹木です。2つ目、根鉢の適切な確保が難しいと樹木医が判断したものということで、外観目視で根本の径の5倍程度の根鉢が確保できないものでございます。③として3つ目、健全に活着することが望めないと樹木医が判断したものというものでございます。

次に、表8.6-30(3)を御覧ください。1ページの最後の表になります。

これまで伐採として扱った樹木のうち、秩父宮ラグビー場東側の港区道沿いのイチョウ19本については、活力度A、Bであるにもかかわらず、腐朽が見られるものや、歩道植樹帯

という限られた空間で根が十分に伸長できていない等、生育が健全とはいえないものも多く確認されています。

今後詳細な調査を行い移植の可否を検討するため、先ほどの 660 のうちの 19 本を移植検討ということで抜き出しております。

次に、2) 詳細調査を踏まえた伐採本数ということで、説明をいたします。

○事業者 2)、三井不動産から御説明いたします。

4 月以降実施してまいりました詳細調査を踏まえまして伐採本数の再検討をいたしましたので、こちらの表に記載をしております。

表 8.6-30 (4) を御覧ください。先ほど御説明した表 (2) におきましては、現況建物や構造物等の解体に支障する樹木や、計画建築物の建築に際し支障となる樹木のうち、以下の①から③の 3 点のものは移植が難しいと、樹木医が判断したため、元々伐採と判断をしております。

今回の詳細調査の対象につきましては、上記伐採対象のうち①及び②を調査対象としまして、現地において樹木医による診断を改めて行っております。

詳細調査の結果でございますが、実際に樹木の状況を樹木医が確かめながら、樹木医が総合的に判断いたしまして、②においては計測にて根本の径の 4 倍程度の根鉢が確保できるものにつきましては、「伐採」から「移植可能」であろうとした結果、結果的には「伐採」と元々カウントしていたものから「移植可」となったものが 85 本ございます。

その結果、伐採本数は 556 本に減少いたしまして、このうち公園エリア内における伐採本数につきましては 407 本となりました。

続きまして 5 ページ目の図 2.4-5 (1) 保存、移植、伐採樹木の分布状況 (建設前) の図を御覧ください。

こちらが元々の伐採本数 660 本の時点の樹木の分布状況です。緑色が保存樹木、青が移植樹木、黄色が伐採樹木としていた樹木でございます。これに先ほどの詳細調査結果を再検討したものが 7 ページの図 (3) でございます。先ほどの図から赤色に塗ってある部分が、詳細調査によって伐採から移植ができるであろうと判断した樹木でございます。

ページを戻らせていただきます。2 ページ目に戻ります。

続きまして、3) 新植によるさらなる植栽について説明をいたします。

先ほど説明をいたしました、表 (4) の存置・移植の本数に加えまして、さらに 439 本の樹木を新植する計画でございます。

8 ページ目を御覧ください。図 2.4-5 (4) 建設後の詳細調査を反映した後の図面になります。分布状況となります。

紫色が新植樹木となりますが、先ほどの赤色の部分、先ほどもありました詳細調査によって移植になるといったものが、赤色で表現をさせていただいております。

また 2 ページ目に戻らせていただきます。

次に、4) 設計・施工による今後の対応という部分でございます。

工事の発注に際しては、環境保全措置を特記仕様書等に記載するなど、環境・樹木保全への配慮を確実に遂行するよう、設計・施工者に対して事業者として要請をしております。

また、今後の設計に際しましては、詳細設計の前倒し等により、文化交流施設棟などにおける隅切りや、外形線の変更などの建物の形状や新たな緑地を創出する文化交流施設棟の設計などの工夫を行ってまいりたいと考えております。

次に 3 ページ目の、5) 伐採樹木の利活用についてです。

伐採した木材を活用につきましては、ベンチや記念品等の製作、木質歩道や堆肥・ウッドチップ等として活用すること、環境にも配慮しつつ適切な利活用について積極的に検討をしております。

続きまして、10 ページ目に移らせていただきます。

2. 文化交流施設棟周辺及び中央広場周りにおける、新植や移植を踏まえた樹林地の再生と生物・生態系について説明をさせていただきます。

まず、1) 目標についてです。文化交流施設棟周辺及び中央広場周りにおきましては、移植木を基調としつつ、新たに新植樹木も配置することで、次の 100 年に受け継ぐ緑地環境を整備することを目標としております。

2) 方策・計画についてです。まず、大径木の移植は移植工程において樹木医の立会い、指導を受けて適切に対処を行ってまいります。

また、新植樹木につきましては、カシ、ケヤキ、サクラ、アオダモ、モミジ類などに加えまして、神宮外苑の特徴ある樹種でもあるヒトツバタゴなどの樹種も取り入れることにより、明るく開放感があり季節感なども楽しめる、人と自然が共生できるエリアと、まとまった樹林によって形成される生態系の創出エリアで構成された「みどり」の風景を創出することを目指してまいります。

14 ページ目の図を御覧ください。こちらが今申し上げました文化交流施設と中央広場周りの図面となります。

移植樹木を中心とした新たに再生するこのエリアの緑地空間は、周辺との関係性を考慮し、大きく3つのゾーンに分けております。

1つ目は上にある円周道路沿道部、また左側に位置しております中央広場周辺、また3つ目が文化交流施設棟南側広場の、この3つで構成することを想定しております。

詳細につきましては、この後、日建設計より説明をいたします。

○事業者 はい、日建設計より説明いたします。10 ページに戻ってください。真ん中あたりですが、①円周道路沿道部と書いているところでございます。

円周道路沿道部につきましては、樹木については、保存樹木と緑量のある移植樹木により厚みのある緑地景観を形成いたします。高木層、中木、低木、地被類で構成される階層構造を有する緑が、周辺の既存緑地とつながることで、生物多様性や生態系の保全にも貢献いたします。

イメージといたしましては、11 ページの中央左側の写真、写真①円周道路沿道部イメージというものになります。

次に、10 ページ真ん中より少し下、②中央広場周辺というところについてでございます。

樹木につきましては、落葉中心で常緑混合の多様な樹種構成の移植木による、明るく開放的な緑地景観を形成します。適度な樹木の粗密配置で明るい林床空間を創出し、足元は一部低木を設けつつも芝地を中心とした構成により、文化交流施設棟との視覚的な連続性を確保し、芝生広場で展開する多様な活動との一体感を創出いたします。

イメージといたしましては、11 ページの先ほどの写真の隣の、真ん中、写真②というものになります。このような空間をイメージしてございます。

次に 11 ページの上の初めのところ、③文化交流施設棟南側広場というところでございます。

樹木につきましては、常緑落葉混合の多様な樹種構成による豊かな緑に包まれた緑地景観を形成します。足元には野球場側との視覚的な連続性を確保するよう、高木層、低木、地被類等による階層構造で構成し、緑地内には散策路を設ける予定でございます。

生物・生態系につきましては、移植した樹木を中心とし、様々な樹高の移植木を植栽して階層構造を有することで、豊かな生態系を形成する予定でございます。

イメージといたしましては写真の③で、3つ並んだ写真の一番右側になります。このようなイメージでございます。

以上、移植木を中心に新たに再生する3つのゾーンについての計画概要でございました。

引き続き、3) 移植時期についてでございます。

移植時期は、落葉が10月から3月ごろ、常緑が4月から7月頃もしくは9月から10月頃、針葉樹が3月から4月頃または9月から10月頃を予定してございます。

4) 移植方法でございます。移植工程については、段階的に整備する各施設の整備計画に合わせ、樹木医の立会い・指導のもと、植付けに適した時期に留意するとともに、十分な根回し期間を確保した上で行う予定でございます。

移植先につきましては、まとまったエリアを確保して、良質な植栽客土を面的に敷設することで、活着を促進するとともに、土中に根が伸長するスペースを確保し、舗装面からの照返しや乾燥にも配慮することにより、健全な植栽環境の創出を目指します。

次の12ページの図が、植栽基盤の断面のイメージでございます。

戻りまして、8ページを御覧ください。保存、移植、新植樹木の分布状況、建設後の詳細調査を反映したものでございます。

赤が移植樹木、詳細調査で追加された計画区域内の移植樹木が85本ということでございます。85本のうち、仮移植が必要とされる建国記念文庫・第二球場周辺部の49本の樹木については、2023年1月頃から根回しを行い、細い根が伸びる夏をまたいで、9月から10月頃に絵画館前広場内に仮移植を行う予定になっております。

その後、各施設の段階整備に合わせ、最終的に2031年頃以降に文化交流施設周辺に本移植を行う予定でございます。

次に、5) 段階的な育成についてです。13ページに戻っていただければと思います。段階的な樹木の成長断面ダイアグラムというものでございます。

樹木の生育過程におきまして、剪定等の人為的な手入れは、倒木、枝折れなど被害が発生するおそれがある場合や、人の通行などに支障がある場合など、必要最低限とし自然な樹形や状態を維持するよう育成を進めます。そうすることで、将来は高木等の成長により一体的なみどり空間を形成する予定でございます。

○事業者 続きまして、三井不動産より説明をいたします。16ページ目の3いちょう並木の保全についてを御覧ください。

4列のいちょう並木につきましては、全てを保全いたします。保全するために並木沿いに施設を整備するに当たっては、イチョウの生育に影響が及ばないよう、根系調査の段階から、設計者、樹木医、事業者が一体となりまして、根系の状態に応じた基礎の構造また施工方法等を精査してまいります。

いちよう並木の西側1列につきましては、野球場棟の工事着工前に根系調査を行います。具体的には16ページの下部分にスケジュールを記載させていただいております。

現在考えているのは、今年の年末から来年の春先にかけて、こちらのいちよう並木の根系調査を実施させていただく予定でございます。

また、4列のいちよう並木の根系調査の具体的な内容につきましては、17ページ目の表8.6-35を御覧ください。縁石部分から6m付近で根系の調査を実施し、根の太さや数などを記録する予定でございます。

根系調査の結果を基にした施設の配慮につきましては、続いて日建設計より説明をいたします。

○事業者 続きまして、日建設計より説明いたします。18ページを御覧ください。表8.6-36 4列いちよう並木の保全に向けた根系に対する配慮についてというものでございます。

根系の切断を避けるための対応といたしまして、設計施工計画段階における配慮事項を記載しております。

根系調査の結果、仮に根が建物の計画範囲に伸びていた場合、根に影響を与えないよう野球場棟の地下基礎部分の形状や大きさの調整、地下ピット部分を一部縮小するなど、構造上の対応について精査するとともに、地下部への影響を最小限に抑える施工方法を採用するなど、設計施工の両面から精査、いちよう並木を確実に保全いたします。

また、イチョウの健全な生育への影響を与えるような根が複数確認され、樹木医の判断により環状剥皮の処理が不相当と判断される場合などは、根を避けるため、該当箇所の壁面後退をさせるなど、施設計画の工夫などを行ない、イチョウを保全いたします。

19ページを御覧ください。樹木医の判断を踏まえまして、やむを得ず一部根系の切除、切断が必要になる場合の対応でございます。

支持根などの根が長く伸びている場合は、環状剥皮処理の対象となる支持根等の直径について詳細な調査結果を踏まえて、複数の樹木医等の専門家の指示を仰ぎながら精査した上で、環状剥皮処理を行います。

また、環状剥皮処理を行う場合は、夏季期間を確実に避け、施工適期までに余裕を持った調査及び処理工程とするなどの配慮を行います。

根系を保護するための方法といたしましては、設計施工計画段階におきましては、配慮事項として樹木の状態を把握しながら、適切な時期に施工できるよう工程に余裕を持って対応する。施工計画書に、地下掘削などの工事を実施する際には、根系の保護に留意することを

明記します。

また、根系調査の結果を踏まえて根を守るゾーンを設定して、この範囲内の根系を保護することなどがございます。

続きまして、エリアごとの緑地の主な生態系と機能についてございます。22 ページ、23 ページにあります図でございます。

22 ページの図 2.4-3 (1) 樹木の分布状況、建設前というものを御覧ください。

計画地内にある緑地を6つのエリアに分けてございます。①、②、③、④、⑤、⑥ということで、6つのエリアに分けました。これは従前、従後とも6つのエリアに分けてございます。

24 ページを御覧ください。表 2.4-1 エリアごとの緑地の主な生態系の機能というところでまとめてございます。ここには現況の緑地の特徴と将来イメージなどをまとめてございます。

例えば、②の中央広場と絵画館前の広場をつなぐ広場というところにつきましては、現況、針葉樹やサクラなどの植栽中心の構成となっておりますが、将来イメージといたしましては、建国記念文庫で縮小した樹林帯の代償として樹林を創出して、ケヤキやクスノキ、クヌギといった高さのある高木とこれより低いシラカシとかといった高木によって構成された、比較的密な林床を有する林相構造を復元していくということでございます。

この後 25 ページ以降、25 から 30 ページにつきましては、先ほどの各ゾーンの現況と将来像の林相イメージということでまとめてございます。この辺の説明は割愛させていただきたいと思います。

この林相のイメージ図ですが、今後、群落調査を実施して、その結果を踏まえて、ブラッシュアップをする予定でございます。樹林環境を指標とする生物種の保存保全種を特定して、その種を保全するための措置を示すということ、評価書の方に記載していく予定でございます。

続きまして 32 ページから 35 ページでございます。環境保全のための措置ということで、今まで御説明した内容、もしくは今までの審議会で説明した内容を、環境保全措置として反映した内容を記載しております。重複する内容でございますので、説明は割愛させていただきたいと思います。

続きまして、36 ページを御覧ください。

○事業者 景観について三井不動産から御説明をいたします。

ラグビー場の施設計画について記載を追記させていただいております。現在、ラグビー場は令和3年1月15日に開催されましたラグビーの振興に関する関係者会議にて了承された、秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方案に基づき、PFI事業者の公募中であります。

外形線を含む施設設計の詳細な計画は決定しておりませんが、競技者が安全かつ良好な状態で競技ができ、ラグビー競技の国際大会が実現できるフィールドサイズなど、競技に必要な要件を満たし、観客が快適かつ安全に過ごせるよう、ユニバーサルデザインにも配慮する必要がございます。

ラグビー場の配置自体は変更ができませんが、詳細な形状につきましては、今後、各方面からの圧迫感や閉鎖性の緩和、既存樹木の保全などに留意したデザインなど、引き続き検討を進めてまいります。

今後PFI事業者が決まり次第、改めて既存樹木について、設計施工の両面からの工夫などにより保存、または移植を検討し、自然環境の保全に努めるよう、事業者としても協力を要請してまいります。

○事業者 次に日健設計より説明させていただきます。38 ページを御覧ください。自然との触れ合い活動の場の項目についてございます。

工事期間中の広場の確保の仕方と、それぞれの機能について示した図を追記させていただきました。

38 ページと 39 ページの図 8.12-5 (1) と (2) でございます。この図 (1) と次の 39 ページの (2) を、評価書のほうに追記する予定でございます。

段階的に整備していく各施設につきましては、施設に付帯している緑地広場についても、併せて順次供用していく計画でございます。

ラグビー場のこの施設の北側に引き続き建国記念文庫、神宮外苑広場と、施設西側に街角広場を整備するということと、一番南側の事務所棟につきましては、施設外周部への植栽や屋上緑化、壁面緑化を整備していく予定でございます。

野球場棟は南北デッキを整備して、複合棟Aはこちらにある施設外周部への植栽や街角広場を整備する予定でございます。

以上、長くなりましたけれども、補足説明を終了したいと思います。ありがとうございました。

○齋藤第一部長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの事業者の補足説明、事業内容や評価書案につきまして、事業者の方

との質疑応答を行いたいと思います。委員の方から御質問や御意見をお願いいたします。

横田委員の手が挙がっているようですので、よろしく願いいたします。

○横田委員 はい、前回以降の御検討といたしまして、追加資料、資料編の毎木の診断調査の結果と、技術的な移植対象木の拡大というような御検討をいただきました。

これに関してはポジティブな御検討をいただいて、情報としても分かりやすいものを出していただいたものと思っています。

環境アセスメントですので、大局的なこともお伺いしてしまうかもしれないのですが、環境保全措置を考えるに当たって、やはり環境保全措置の優先順位もあると思うのですね。

回避、低減、代償という優先順位というのは、原則的に認知されているものですが、今回その移植の拡充に関しては代償措置に位置付けられるのではないかと思います。

一方で、その環境影響評価の中で、その回避・低減に対する部分を、きちんと影響も含めてお示しいただくことが必要なのかなと理解しています。

そういったときに、まず1点目の樹木の数ですとか、建物との配置に関する検討の中で、どういった観点の影響の回避並びに低減という観点で、今回御検討いただいた部分なのかということ、まずお伺いしたいと思います。お願いします。

○事業者 はい、ありがとうございます。三井不動産です。

今回の施設計画に当たりましては、スポーツの継続、競技の継続性という観点から、段階建替えとさせていただくことが一つ前提となっております。

その中で、今の施設に近接している樹木や、まさに建て替える先の部分にある樹木については、伐採はなかなか回避が難しいと考えてございます。

一方、今回の資料編でも記載をさせていただきましたが、3 ページ目の部分にございます。その1 ポチ目に記載をしてございますが、文化交流施設棟の周辺部分につきましては、今回新たな風致の核をつくりたいと、事業者としても考えておりまして、こちらの部分につきましては、施設計画の隅切り部分を変更したり、また外形線を一部変更することで、保存樹木を増やすなどの、まさに横田委員が言っていただきました回避という部分が検討できるのではないかと考えてございます。

新たな緑地を創出するこちらのエリアについて、配置・工夫を行ってまいりたいと考えてございます。

○横田委員 それは以前も保全対象木を基本にした植栽形成をされるということで理解して

おりましたので、回避に該当する樹木が緑地の要素になってくるという理解でおります。

一方で、例えば、野球場といちよう並木の間の緩衝の樹林ですとか、それから建国記念文庫の周辺の並木といったものに対して、現状の基本設計の段階で、樹木保全の配慮を設計仕様に盛り込むというふうに、3 ページに、これからの詳細設計において盛り込むと書かれています。基本設計の段階でこういった配慮がなされたのかといったあたりを、こういった周辺の樹木に関して教えていただきたいなと思います。

○事業者 はい、まず三井不動産から御回答させていただきます。

実際、施設の計画につきましては、まだ基本設計がスタートしておりません。16 ページ目を御覧いただきたいのですが、一番下の表 8.6-34 でございます。

スケジュールといたしましては、まず野球場を例にとらせていただきますが、施設の施工・着工という意味では、26 年末、27 年頃から開始をしております。

そこから逆算をしております。基本設計を着手するタイミングとしましては、来年を予定しております。また基本構想というタイミングでございますので、まさにこの年末から来年の春先にかけて、根系調査を実施させていただき、その調査の結果をもとに、基本構想の練り直し、また基本設計の反映という部分を検討してまいりたいと考えております。

○横田委員 ラグビー場のほうはついてはいかがでしょうか。

○事業者 はい、ラグビー場につきましては、先ほどの御説明と一部重複をいたしますが、現在 P F I 事業者の公募中というステータスで、なかなか今そちらに対して、決まった情報が出ておりません。

今月末に P F I 事業者が決まるとされておりますので、今後 P F I 事業者が決まり次第、まさにこちらの樹木に対する保全もしくは移植の検討という部分を、我々事業者としては P F I 事業者に強く要請してまいりたいと考えております。

○横田委員 ありがとうございます。

そうしますと、この表に掲載していただいている移植木の拡充も含めた樹木の本数などに関しましては、今後の基本設計の中でよりその樹木の保全の観点から、計画の可変性が出てきた段階で、それは増える可能性があるという理解でよろしいでしょうか。

○事業者 はい、その理解でございます。

○横田委員 存置に関しても増えるという理解で正しいですか。

○事業者 増やせるよう努力をしております。

○横田委員 それは是非実現していただきたい事項であります。

それから、移植に関してですが、2点目の10ページ以降の次の100年に受け継ぐ緑地整備という考え方ですね。こちらは大変すばらしいコンセプトと思います。

これまでの100年をどう継承するのか、これに関してもやはり貴重な緑の受け継ぎ方という点が非常に重要じゃないかなと思います。

神宮外苑は樹冠をしっかりとつくって、景観軸をつくったり、遷移を含めて樹林環境を形成していくというような、歴史的な緑地景観のつくり方をしてきている中で、これが移植木を中心とした新たな樹林で実現していく必要がある継承要素じゃないかと思います。

今、移植の考え方を御説明いただきましたが、2023年の冬に種まきなどを始められて、長い期間ですと2031年以降ということで、広場ができるのは最終的な段階になるかと思うのですが、8年間の仮移植になると思います。

8年間仮移植したものが、再移植でさらにちゃんと活着して、そして樹林を形成していくまでには、さらなる年月やそれを支援するような措置というのが、非常に大事になってくるかと思うのですが、今回こういった樹木の樹形を維持する措置であるとか、樹木の樹勢を維持する措置を移植の中で御検討されているかですね。それをもう少し具体的にお伺いできるとありがたいなと思います。

○事業者 日建設計です。回答させていただきます。

まず移植に関しては、先ほどの説明の中にも一部ございましたけれども、仮移植に際してもしっかりと植栽基盤を設けるということが、まず最重要かなとは考えています。

したがって、スポット的に根鉢の周りに客土を入れるだけではなくて、本数も多いので面的な植栽基盤をしっかりと用意して、仮移植期間中の根系が伸びるように、しっかりと確保するというのが一つ目でございます。

それから、灌水設備を設けて、根からの水分の吸収と蒸散のバランスを確保するというのと、それから台風等に対する倒木等の対策としての支柱もやらせていただくということを考えております。

さらに、いろいろ予期せぬことも長い期間になりますのであろうかと思えます。病害虫の発生等々あるかと思えますので、その期間の樹木医等を含めて、モニタリングを定期的に行って、枯損等に対する対処をしたいと考えております。

樹形に関しては、移植に際しては一定の剪定等を行うことが必要になってきます。8年という期間の中で再び萌芽していった枝に関しても、最終的には移植のときにはもう一回詰めるということがあろうかと思えますけれども、そこはそのときの適切な樹木の水分の balan

ス等を見ながら、一方で樹形的にも著しく樹形を損なうことがないように、逆に言うと、そこは一定程度剪定したとしても、樹形が著しく損なわれない樹木を移植対象にというような形で整理をしているところでございます。

○横田委員 ありがとうございます。

例えば、現在のラグビー場の裏のテニスクラブのところのいちよう並木が、移植対象に今回変えていただいている部分だと思うのですが、こういった高木に発達しているイチョウの移植というものをどのように実現されるのか。

一般的には、芯を詰めてしまう印象があるのですが、一方で高木のままでできるだけ移植するというような、これ当然コストも関連してくるかと思いますが、そういう技術もないわけではありませんよね。

その辺りのどの程度の範囲の樹木に関しては、現状の樹勢や樹形を維持するといった考え方を、現在お持ちになっているのかお伺いできればと思います。

○事業者 今御指摘のあった秩父宮ラグビー場に至るところですが、こちらに 19 本のイチョウがあるわけですが、ここのイチョウにつきましても、現状の活力度の調査もされていまずけれども、引き続き根系の状態ですとか、こちらは街路樹になりますので、非常に根鉢の形状が歪な形をしているのではないかと想像されるわけですが、そういったことの中で根鉢が適切にとれるかどうか等々、まだ時間もありますので、その中で樹木医とも調査をした上で、前向きに移植の検討をしていきたいと思っています。

移植先に関しましては、文化交流施設、仮に移植が可能ということが、今は検討樹木となっていますが、移植可能という判断ができれば、文化交流施設側のところに移植をしたいと考えています。

それであれば、基本的に場内での移植が可能になってくると思いますので、全く同じ樹形でいけるかどうかというのはありますが、著しく樹形を損ねることのないように、一定程度選定しながら、総合的に最適な移植方法で移植をしていくというようなことが考えられると思います。

○横田委員 ありがとうございます。是非そういう樹形、樹勢の維持という観点を持ち続けていただきたいと思います。

それは、ある意味景観に対する配慮としても非常に重要な観点で、そこは最後に景観の部分で少しお伺いできればなと思っております。

いちよう並木の話が出ましたので、3 点目のいちよう並木の件ですけれども、今回、根系

調査に関して、具体的な方法を御提示いただきました。

ここでやはり少し環境保全措置の話に戻ってしまいますが、やはり基本的な対応方針、17ページ、こちらの中で根系の環状剥皮等による根系への影響を低減するというステップが書かれています。この根系の環状剥皮等を経て、それも不相当と判断される場合は壁面後退というようなことで書かれていると思うのですけれども、こちらは、環境保全措置の書き方としては、やはり壁面後退がどれだけできるのかという観点を、きちんと書いていただくことが非常に重要な視点でありますし、今回の一番心配されるいちよう並木に対して、壁面後退前提での検討を先にさせていただくことができないといけないのではないかと考えております。

その中で、先ほど申しました現状 10mの範囲、シイですとか、クロマツなどが植わっていると思うのですけれども、そういった緑地帯の保全に関するような検討だとか、バッファゾーンとかいったことを検討いただく必要があるのかなと思います。

そこに関して、少し事業者の皆さまの考え方、基本的に壁面後退前提ということを中心に検討いただけるのかどうかということをお伺いしたいと思います。

○事業者 はい、三井不動産です。

まず事業者といたしましては、先ほども御説明いたしましたとおり、4列のいちよう並木の景観の保全ということは今回絶対であると考えております。

そのために、まさに今年の年末から来年の春にかけて根系調査をさせていただきますが、今横田委員がおっしゃっていただきましたように、壁面後退を前提とした調査ではなくて、まさに4列のいちよう並木を保全するために、この根系調査をさせていただきたいと考えております。

ですので、この調査をした結果、やはり今の計画では支障が出る部分が出てくれば、今申し上げましたような壁面後退も、当然検討させていただきますし、まず我々に考えているのはこの4列のいちよう並木を絶対枯らさない、保全をするんだという部分は、強い思いを持っておりますし、そうさせていただきますので、その前提の中で根系調査を今回やろうと考えております。

○横田委員 ありがとうございます。

私も壁面後退のために調査することを考えておりません。もちろん、環境影響のきちんとした理解のために、まず調査をするというふうに理解しております。

少し懸念したのは、③のところはその壁面後退が出てくる工夫を行うというのが出て

くる件です。その書き振りのお話なんです。

環状剥皮をするというのは、ある意味、細根を伐採せざるを得なくて、そしてある程度の太さのある根からの新たな細根の育成を図ろうとして行う。やはりこれも影響の生じた段階の後の措置かなと思います。特に移植木などに対してとる措置なので少し違和感があります。

ですので、まずその調査結果を踏まえてやっていただくことは、施設配置の検討ではないかということです。そこをきちんと順序立てていただきたいというお願いなんです。そこに関していかがでしょうか。

○事業者 はい、環状剥皮の施工方法につきましても、我々優先順位が高いとか、絶対とかという考えはございません。

やはり4列のいちょう並木の保全というところを大前提といたしまして、手法として樹木医が判断して、環状剥皮でもいいんじゃないかという部分があれば、その手法を採用したいとは思っておりますけれども、それが適当ではないというふうに樹木医も判断すれば、我々当然施設計画の変更を含めて壁面後退を検討していきたいと考えておりますので、そちらは今この記載の順序としてはこういう順序となっておりますが、樹木医に適切に判断してもらい、我々はそれに従って、また施工者とも協議を重ねて保全をするためにどうするのが最適かという部分を検討してまいりたいと考えております。

○横田委員 ありがとうございます。ぜひお願いします。

特に、少し細かい話になってしまうかもしれないのですが、店舗などの施設ですとか、防球ネット、これは高さが必要というお話を伺いましたが、これに関して仮囲いのようなものというのがどうしても出てくるような印象でずっといるんですね。

そうしますと、縁石から8mですので実質6m近くになってしまうかもしれませんが、その内側にやはり工事段階で非常にこう溢れてくる仮設物があるのではないかというのを少し懸念しております。

ですから、今現在の計画が影響を十分に最小化できているかという点、それは決してそうではないと思っております。そうなりますと施設配置の観点から、もう一回つくり方も含めてきちんと影響を回避して低減した上での保全措置としての環状剥皮だというお話であれば、非常に環境保全措置の考え方になってくるように思います。

特に地下構造物が懸念されています。一般的に地下と地表のストレスが植物にとってはあって、地下でいいますと土壌水分ですとか、土壌の構造だと思います。

そうしますと、やはり土壌で言いますと、表面からの浸透がやはり減るといような観点

ですとか、圧密によって土壌の根系に対する何らかの影響が生じると、根系が発達する範囲が限定されてくる話があると思います。

それから、構造物が近くにあるということは、やはり地上に関しても熱環境ですとか風環境の変化によって、そういったものも植物にとってはやはりストレスになってくるわけです。

そういった観点でやはり大事になるのは構造物との関係であると。そうしますと、やはり構造物に対する保全措置が最も優先されるべき話でありまして、根はその後と考えられます。

ですので、根系調査の結果を、構造物の施設配置、それから離隔距離の確保という観点で、まず活用していただくということをお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○事業者 はい、ありがとうございます。今後の調査の結果を踏まえて、今いただいた御意見を含めて検討してまいりたいと考えております。ありがとうございます。

○横田委員 生態系に関しまして御説明いただきましたので、特に 24 ページにあります主な緑地の生態系機能をきちんと位置づけていただいたという点は、前回からも非常に検討が具体化された点かなと考えております。

やはり新たな樹木の再生ということ踏まえると、やはりこれから実施されると伺っていますけれど、生物調査の具体的な反映を、この緑地計画の中に取り入れていただくというように、非常に重要なのかなと思います。

現在 25 ページ以降、それぞれ垂直構造をお示しいただきながら、生態系の資料集のようなものを出していただいていますけれども、やはりここでは再生の指標というのですか、樹木再生の指標というものをきちんと設けて、それを実現するような樹木の育成ということと、保全した樹木とのネットワーク化ということを中心に考えていきたいということ、こちらはお願いとして挙げさせていただきます。

また、景観、36 ページでしょうか。景観に関してよく分からなかったのですが、ラグビー場の圧迫感というような話だったのですが、これに関してこれまでの検討の熟度と申しますか、どういったところまで前回から進められているのかということをお伺いできますでしょうか。

○事業者 はい、三井不動産です。

先ほどの御説明と一部重複をしてしまうのですが、現在ラグビー場の施設計画につきましては、PFI 事業者の公募中ということで、実は 5 月末のタイミングから、このタイミングにおいては特段深度化がされていないのが実態でございます。

ただ一方で、委員の先生方々からの御意見やアドバイスを踏まえまして、まさにそういっ

た圧迫感の軽減という部分も踏まえて、PFI事業者が決まり次第、そういった部分につきましてもちろんと配慮するよう計画してほしいということを、PFI事業者には申し入れてまいりますので、その部分でご評価をいただきたいと考えております。

○横田委員 ありがとうございます。

施設の規模に関して、今一つ具体的な情報がないのが、少し理解をしきれないところの一部要因になっているのかなと思うのですけれども、今現在の規模というものが、どの程度容量として見込まれているのか、もう少し規模を縮小したりとか、高さを軽減したりというような措置が、今後できるのかどうか、その辺りをお聞かせいただけますか。

○事業者 はい、まず全体の規模からいきますと、やはり国際大会ができるようなフィールドの大きさ、また観客数というものが定められておまして、それに従って今回ラグビー場を計画しておりますので、なかなか大幅な縮減という部分は難しいかと考えております。

一方、高さの部分につきましては、今最高の高さ 55mというところで都市計画では決まっておりますけれども、実際にPFI事業者を公募するタイミングで、その高さについては新国立競技場との関係性も踏まえて、十分留意して提案するよという形で公募しておりますので、そういった部分については、まだ提案を見てみないと、また、かつ事業者が決まらないと、実際どういう計画が出てくるか正直分からないところがあるのですが、一定の配慮をされた計画が出てくるのではないかなとは考えております。

○横田委員 ありがとうございます。

観客席なども考えると、当然できるだけの縮小をしても、縮小するところの面積の高さが出てしまうと、非常にバランスが難しいというのは理解しているのですけれども、やはりここでは環境の観点からお伺いしたいのですが、この景観的な価値として、やはり非常に高さのあるものというものがそぐわない景観であり緑地環境だと思います。

そうしますと、どうしてもその高さを下げる措置といったことが必要になってくるかと思うのですが、そういった高さの観点からの保全措置といいますか、そういったことというのは今後検討されていくということで理解してよろしいのでしょうか。

○事業者 まさに景観に対する圧迫感について御指摘をいただいているという点は、事業者も含めて認識をしておりますので、その点も含めてPFI事業者が決まり次第要請をしてみたいと考えています。

○横田委員 わかりました。ありがとうございます。

同様に、やはり野球場に関しても、現在の施設配置ですと、いちょう並木側に寄られてい

ますが、これをやはり先ほど来の景観も含めまして、いちょう並木の軸線の環境の保全の観点からいうと、配置に関してこれを寄せられる要素があるのではないかというふうに、どうしても図面上思ってしまうのですが、西側にですね。その辺りもやはり今後の検討の要素の一部になってくるという理解で大丈夫なんでしょうか。

○事業者 日建設計です。

野球場に関しましてもまだ先ほど来御説明させていただいているとおり、基本構想という段階で中身の詳細なシミュレーションというのはまだというところで、今後避難の考え方とか、イベント時の人流のシミュレーションだとかいうところの中身の要素、運用を含めて、検討していくことで、その辺が可能か否かというところを継続して検討してまいりたいと思います。

○横田委員 ありがとうございます。

一定のやはり確定的な部分もあろうかと思うのですね。しかしながら、不確定な部分のほうが多い現在においては、やはり環境の観点からは、できるだけ緑地に対する影響の少ない方向で、まだ可変性のある要素を検討の中で、その観点を含めていただきたいと思います。それは景観に関しても全く同様です。

最後になりますけれども、自然との触れ合いなども含めて、この次の100年の緑地環境の観点ですけれども、是非事業者の方から、今後の緑地の樹木の再生と申しますか、外苑の緑の再生に関するコンセプトなり、メッセージをいただけるとありがたいと思います。

○事業者 はい、三井不動産です。

今提示をさせていただいておりますページをもって御説明をさせていただきます。

今我々事業者といたしましては、今まであったこの100年の歴史のある樹木という部分と、これからつくっていく100年の樹木という部分の2つを考えてございます。

その中で、まず今までとても大切にしてきたこの樹木のエリアという部分が、まさにここに書いてあるいちょう並木の部分であったり、御観兵榎、また絵画館前の樹林地、また建国記念文庫の辺りだと考えております。

また一方で、今回の開発に当たって新たにつくる風致の核という部分では、御観兵エリアと対をなす部分、いちょう並木の反対側、まさに文化交流施設棟の部分について、樹林地を組成して行きたいと考えております。

先ほど来、日建からも説明がありましたが、ここの文化交流施設棟の周辺につきましては、建国記念文庫の周辺にあった樹林地を、この文化交流施設棟でも再生をし、また次の100年

に向けた新たな樹林地をこの場でつくっていきたいと考えております。

こういった今までの100年を大切に、またこれからの100年を見据えた緑を組成して行きたいというふうに、事業者としては考えております。

○横田委員 どうもありがとうございました。

環境保全措置の中でこういった図を出していただきましたけれども、それが具体的に次の100年という形で事業構想の中にもきちんと位置付けられて、これから多くの都民の方々のご参加をいただきながら、そういった事業を進めていただくというような形でお願いしたいと思います。

どうもありがとうございました。

○事業者 はい、ありがとうございました。

○齋藤第一部長 ありがとうございました。横田委員、よろしいでしょうか。

他はいかがでしょうか。会長、よろしく申し上げます。

○柳会長 枯損木の取扱いについて1点確認させていただきたいと思います。

枯損木の計上の仕方につきましては、この資料1-1の1ページ目で明らかにしていただきましたが、これまで計上に当たっては、過去15年間に道路通行車両や歩行者への安全管理上の理由から、300本の枯損木除去を行ったという管理上の実績があるところで、伐採対象木として想定上計上されてきたということですが、本来、樹木医の指導の下で安全管理上の必要が生じたような場合において、1本1本の状態の確認の上で将来的に対応すべきものであることから、今回の伐採に直ちには計上をしないという判断に至ったということで理解いたしました。それでよろしかったでしょうか。

○事業者 はい、三井不動産です。

今御説明をいただいたとおりでございます。

○柳会長 はい、承知いたしました。

○齋藤第一部長 ありがとうございました。

それでは、荒井委員からよろしく申し上げます。

○荒井委員 廃棄物担当の荒井から質問と確認をさせていただきたいと思います。

今日の会議の途中で御説明がありました伐採樹木の利活用という話で、やむを得ず伐採することになる樹木があるということになります。

そうした樹木、木材は積極的に活用するというので、ベンチや記念品等の製作、木質歩道、堆肥・ウッドチップ等に活用するという提案が、きちんと示されたということで、ここ

は是非積極的にしていただく、それはこれからの100年というところのシンボルにもなるのかなと、個人的には期待しているところです。

そういった伐採樹木の扱いについてですが、まず1点は、建設廃棄物等の予測をすることで、現行の評価書案のほうにはいろいろ様々な廃棄物の発生量の予測がなされているわけで、数値として出ているわけですが、今その対象になる伐採樹木の扱いについては、その廃棄物の予測ですとか、発生量の数値の中にそういったものがきちんと入っているのかどうかです。

今回、再検討があるということなので、仮にあったとしてその数値の見直しも関係するのかなと思ったのですが、まずその数値が反映されているのかどうか、そこについてまず確認したいと思います。

○事業者 はい、御質問ありがとうございます。日建設計から回答させていただきます。

現在評価書案に記載されている廃棄物の総量に関しましては、建築物の解体に伴い発生する廃棄物、主要な廃棄物の量になっておりますので、実はこの伐採樹木の部分が含まれてないという数字になってございます。

今回、樹木の伐採とか保存の話がこれだけ大きくなって、確かにかなりの伐採本数を減らしたとしても、かなりの量の樹木の廃棄物が出ることになりますので、そこら辺はちょっと計算方法がなかなか難しいと思うのですが、いろいろなデータを基に廃棄物の総量の中に組み込んでいきたいと思います。

○荒井委員 分かりました。技術指針においては、伐採樹木量は調査対象項目として挙げられているようで、今日の資料の中にも相当量の伐採が計画されていますので、調査予測が必要なのだろうと考えるところです。是非御検討いただきたいと思います。

また、利活用すると言っている以上、対象になるものがどれだけあるのか、そのうちどれだけを利活用するのかということの、定性的には積極的に検討するとは言っても、どれだけのものを利活用しようとしているのかという、数値的な意味合いもありますので、可能な範囲で、より具体的にそういうことを示すということは、数字で示すということも大事なかなと思います。言葉で言うだけじゃなくきちんと数値で示すということは、やはり責任ある対応なのかなと、事業をよりスムーズに進めて行くためにも是非検討していただきたいと思います。

特に今回対象地域での伐採樹木というものは、これまでの保全の取組みももちろんそうですけれども、伐採したものの扱いというものもきちんと活用する。でも、活用するためには

ストックヤードもきちんとないと、うまく利活用できないのではないかなと思います。

そういったところも丁寧に、従前以上に伐採した樹木の取扱いについては、きちんと管理する。より一層丁寧に、今までも丁寧に扱っているとは思いますが、この事業においても伐採樹木の利活用を考えたときには、ストックヤードも含めた、きちんと予測・評価というものを実施していただきたいなと思います。

突然こういうタイミングで廃棄物の観点の話をしてしまいましたけれども、今回、伐採樹木の本数というのを、今までは数値としてありましたが、より具体的に固まってきたかなと思いますので、こういうタイミングで発言することになったことは、ちょっと申し添えておこうかなと思います。

評価書に最終的には総括審議の項目にもその点を付け加えていただこうかなというふうに、後ほど審議の中で提案しようと考えているところです。事務局とはこの意見案については調整でありますので、その点お含みおきいただきたいと思います。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

特にストックヤード等も含めて定量的に出していただいて、評価書に反映していただくことと、それが実現可能な、そこを担保するような記述にしてくださいということかと思しますので、是非よろしくをお願いします。

荒井委員、ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。

奥委員から手が挙がっているようです。奥委員、よろしくお願いします。

○奥委員 ありがとうございます。

今回お示しいただいた資料の内容としては、できるだけ伐採本数を減らして行って、移植も含めてできる限り保全をしていこうという事業者の方の真摯な、前向きな積極的な姿勢も伺えたので、それは評価できるころかと思います。

ただ一方で、先ほど横田委員とのやり取りの中でもお話がありましたけれども、例えば移植するにしても、移植に移植を重ねて確実に活着するのかとか、いちよう並木も確実に保全をするというふうに、事業者の方は言うてくださっておりますけれども、本当に確実に、全て保全できるのかといったところは、やはりまだ不確定要素、不確実性というものを多分に伴うわけですので、もし想定どおりに行かなかったときにどうするのかといったようなことも、しっかりとあらかじめ御検討いただいて、それを示しておいていただくことが重要なことと思っております。

先ほどの御回答の中にも、予期せぬことへの対応ということも、樹木医と相談しながらしつかりとっていただくということではあるのですが、今回示して下さっている資料の中の 35 ページの下のところ、(2) で予測に反映しなかった措置というのを記載していただいておりますが、ここに書いてありますということなのかもしれませんが、この2つのポツで表していただいている内容というのは、もう全般的な、割と抽象的な、どの評価書においても見られるような記載内容になっておまして、もう少し移植樹木が活着しなかった場合もしくはその健全な育成というものが望めなくなってしまった場合にどうするのか、いちよう並木についても確実な保全を図ろうということで、建物の形状変更等も含めて検討はして下さるということですが、それでもなお保全が困難なような状況が起きたときにはどうするのか、そういったところも踏まえた記述、もう少し詳細な予期せぬ事態への対応に係る記述というものをしておいていただきたいというふうに考えております。

以上、要望になりますが御検討ください。お願いします。

○事業者 三井不動産です。御意見ありがとうございます。まさに評価書にてそういった部分を反映できるように検討してまいりたいと考えますので、引き続きよろしく願いいたします。

○奥委員 はい、よろしく願いいたします。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

柳会長の手が挙がっていますが、会長、お願いいたします。

○柳会長 今、奥委員が指摘された 35 ページの、予測に反映しなかった措置が 2) になっているのですが、1) はどこに出ているのでしょうか。(2) 予測が反映しなかった措置が 1) ということなののでしょうか。

○事業者 はい、日建が回答させていただきます。

35 ページの下にある (2) 予測に反映しなかった措置、これは (2) になっています。

(1) がどこにあるのかと言いますと、これは、予測に反映した措置、32 ページの一番初め、ここに (1) 予測に反映した措置となっております。

○柳会長 いや、それは分かっているのですが、(2) の次に 1) が必要じゃないですか。そこがなくて 2) に続いているので、1) がないと。

○事業者 失礼いたしました。これは、今回、評価書に載せるイメージを載せておまして、35 ページまでは生物・生態系のページになってございます。

次の 36 ページからは、実は右上を見ていただくと判るのですが、景観のページになって

ございます。

たまたま 36 ページの一番上が 2) になってしまって、すみません、説明不足で紛らわしいことになって申し訳ございません。

○柳会長 はい、了解いたしました。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

他、いかがでございましょうか。何か御意見はございますでしょうか。

玄委員、お願いいたします。

○玄委員 私からは、もしかして聞き逃してしまったことがあるかもしれませんが、2 点ほど確認していただきたいと思っています。

景観に関して 36 ページの圧迫感の変化の程度のところではありますが、こちらに書いてある内容を見ると、計画建物の配置は景観計画や景観ガイドラインに適合しているものの、今圧迫感が最大で 10.87 ポイント程度増加するというふうに書いてありました。

この圧迫感を軽減するために、その圧迫感の変化の程度が 3 段落目に書いてありますけれども、それが具体的にどれくらい軽減できるかというところは、数値で表示することは可能でしょうか。

圧迫感が建物の計画の配置については、景観計画と景観ガイドラインに適合しているのですが、それにもかかわらず圧迫感としては増えているというふうに、今予想していますね。

それを軽減するために対策をすると思うのですが、その圧迫感の低減の効果がどれくらいになるかどうかは、数値で表示することは可能ですか。

○事業者 はい、御質問ありがとうございます。

先ほど事業者から御説明したラグビー場の P F I 事業者の話とも関わってくると思うのですが、当然、事業者が決まりましたら具体的な計画が出てくると思います。

その際に、具体的な計画が出てきましたら、当然もう一度、圧迫感の再予測、天空図を用いて表して、それを数値で表す予定でございます。

○玄委員 はい、承知しました。お願いします。

次の質問は、この植栽計画に関するのではなく、今回の植栽計画に伴って風環境にも影響が出るかと思っているのですね。

今これまでやってきた風環境の評価と、今の植栽計画を応用した場合の風環境の変化が当然変わると思うのですが、その評価については、風環境の影響の変化はこれからどういうふうにするか、もし回答ができるならば教えていただきたいと思っています。

○事業者 御質問ありがとうございます。日建設計から回答いたします。

例えば、先ほどから説明しておりますラグビー場は、今後形状等も変わってくると思います。そこだけではなくて細かいところの形状も変わってくると思います。さらに植栽計画も具体的なものが出てくると思います。

風環境につきましては、ある程度変わってきたものの確度の高い計画が出てきた時点で、もう一度風洞実験をする予定でございます。その上で再予測をして再評価して、それを変更届で報告するという流れになると思います。

○玄委員 はい、承知しました。これは再度、風洞実験を行って再評価を行うということは、非常に大変なところではありますけれども、是非やっていただきたいと思っています。

よろしくをお願いします。

○齋藤第一部会長 ありがとうございます。

それでは、水本委員、お願いいたします。

○水本委員 はい、史跡・文化財が担当ですが、自分の専門というよりは、これまでの議論を踏まえてコメントを少しと思っております。

今回は事業者さんが理念をきちんと出されたということで、非常に固い決意を感じましたので、これは非常にすばしかったなと思うのですが、その上で、ただ、横田委員もご心配されてましたように、まだ揺らぎがあるプランということがあって、その辺りがやはりまだ少しの懸念を残しているかと思えます。

その辺で、ちょっとコメントですが、そういった情報公開といいますか、やはり多くの方が不安に思っていたりする中で、今後、情報公開ということについて、あるいは先ほど横田委員から御提案がありましたように、都民と一緒に緑を形成していくとか、そういったことについても少し何か将来的な見通しなどを、もし既に検討されているようであれば、お聞かせいただきたいのですけれども、お願いいたします。

○事業者 はい、三井不動産です。御意見ありがとうございます。

今事業者といたしましては、5月に今回の神宮外苑街づくりのホームページということで、このプロジェクトサイトを立ち上げさせていただいております。

まさにこういうアセス審議会で御議論をさせていただいた内容であったり、資料等につきましても、今後、分かりやすくこの事業者のホームページでも樹木の本数も含めて、アップをしていきたいと考えております。

また、先ほどからお話ししている根系調査につきましても、調査の結果どういった対処

にしたほうがいいのかだったりといった部分も、積極的に情報発信をしていきたいと考えておりますので、その点のお話をさせていただきました。

○水本委員 ありがとうございます。

やはりインターネットの社会ですので、是非リアルタイム、もしくはそのコンセプトをたいていく段階でも、どんどん情報発信をしていただけると、非常にその懸念も減っていくことかと思えます。是非その辺りをよろしく願いいたします。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。何かございますでしょうか。

森川委員、よろしく願いいたします。

○森川委員 今日はいろいろ詳細な説明をしていただきありがとうございました。私の専門ではないのですが、せっかくなのでちょっとお聞きしたいと思っております。

特に詳細な樹木の調査をなさって、ある程度まとまった本数を、伐採ではなくて移植するという計画になったところで、非常によかったなと思っております。

特にいちよう並木につながっている一部のイチョウがございましたが、その部分を保存していこうという意気込みというか、姿勢を本当にありがたいなと思って聞いておりました。

ただ、素人目にも、あのいちよう並木の一部ですが、移植するには相当難しいのではないのかなと、現地調査でも見て、それを移して、耐えて、また戻ってくるというのが、どれくらいチャレンジングなことなのか、勝算というか、できると判断して今回この提示いただいたと思うのですが、その辺りのところを、どれくらいの困難の度合いだったのか、樹木医の方ともご相談されたと思うんですが、お聞かせいただくとありがたいと思います。

○事業者 はい、日建設計です。

今御指摘いただいたのは秩父宮ラグビー場に至るいちよう並木のことでと認識いたしました。

詳細な調査はこれから根系等も含めて、しっかりと根鉢がとれるのか、移植に当たって根鉢がどうとれるかというのが重要なポイントだと思っています。そこら辺の状況をしっかりと把握をした上で、前向きに検討ができるかどうかということを考えていきたいと思っております。

御指摘のように、20mを超える樹高でありますし、一方で非常に細い植栽帯の中に植わっているというところで、根っ子の形も不定形だというふうなところまでは把握しているところではございますが、技術的には絶対できないということ、今判断することもできないと

思いますので、引き続き調査をした上で樹木医と相談して判断をしていきたいと思っております。

技術的にできないことはないのだろうと思っております。非常にコスト等もかかるということでもありますけれども、それ以上に重要な樹木であるということも事業者含めて認識しておりますので、是非ともこれについては検討して進めていきたいと思っておりますのでございます。

○森川委員 ありがとうございます。

その気持ちというか、そうやって守ってきたいということは、非常に大きいインパクトを与えたいと思いますので、先ほどの情報発信とも合わせて是非アピールして、そして守っていただければよいかなと思っております。ありがとうございます。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

様々な技術としてはいろいろな手法がとり得るのだと思うのですが、その技術によってどれぐらい保たれるのか。例えば、いちよう並木がですね。そういうある種の確率的な確度との関係だと思うのです。

技術はいくらでもいっぱいあると思うのですよね。そのどれを選択するのかといったときに、そのいちよう並木を守れるという確度、しきい値、基準をどこにとっているのかというところが、皆さんが気になっているところで、それをできるだけ確率の高い、確度の高いものを選択していただきたいと思えますし、そのための情報を提示していただいて、事業者の判断というものの確からしさというものを、しっかりと伝えていただきたいと思っています。その点、是非よろしく願いいたします。

他はいかがでしょうか。委員の皆さま方から何か。

よろしいでしょうか。

専門でない私からまたちょっとだけ話をお伺いしたいと思っておりますが、横田委員からもいちよう並木の件に関して、地下構造物との関係が極めて大切だという話があったと思います。

今回、地下構造物がどういうふうになるのかというのは、図で示していただいたように思うのですが、これは結局、イチョウの樹木の中心から最短の、下に基礎に打っていますが、基礎までの距離というのは、どれくらいを想定されているということでしょうか。

○事業者 日建設計から御説明させていただきます。

まだ地上の構造体についても構造の設計が進んでいるものではないところもありますので、

地下躯体については、現状は地下基礎をいちよう並木側については、深さについては、並木に近いところ、根っ子に支障が出る可能性がある部分については、深さを 1m から 1.5m ぐらいの深さで基礎を扁平させるという方法で今考えております。

イチョウの芯から地下部分の躯体については、今後の詳細検討によるところもありますが、6.5m 程度の離隔は確保していくことで、今のところは検討させていただくところがございます。基本設計の中でさらなる対応も含めて継続して検討してまいりたいと思っております。

○齋藤第一部長 分かりました。

この今、赤い四角で囲まれたところに地下に円柱がこうあって、基礎杭かなんかだと思うのですが、これは奥行きの間隔でいくと、どれぐらいの間隔でそれを打っていくような感じになるのですか。

○事業者 今いちよう並木に平行に配置するような形になっておりますが、こちらも暫定的な想定でございますが、この大きな杭については、9m もしくは内外程度ということは今想定しているところです。

○齋藤第一部長 分かりました。

そこら辺の配置がちょっと分からないところがあるので、そういったところもしっかり提示をしていただきたいと思えます。それを評価書のほうにそこら辺も提示をしていただきたいと思えます。

この杭の太さはどれぐらいなのでしょう。それも具体的ではないでしょうが、通常これぐらいの太さですというので結構です。

○事業者 野球場とかこういう施設の通常というのは、その計画ごとに検討するところがありますので、この辺りももう少し検討しながら、その径だとかを示して、引き続き評価書の中で示していきたいと思っております。

○齋藤第一部長 分かりました。

事務局を通じて、現在の地下構造物に対して、今度新たにつくるときにはこういう杭が打たれてという状況ですという、こちらは出ているのですが、現在の状況とどう変わるのかということに関しても、情報も提示していただきたいという話をさせていただいたように思うのですが、現在の状況に関する情報というものはお持ちなのでしょうか。

○事業者 はい、三井不動産です。

現在の構造物というものがロイヤルガーデンカフェ、あとはシェイクシャックのカフェがあらうかと思えます。あちらの建物の図面があるかないか、地下構造物がどうなっているか

という部分については、確認をして、ありましたら評価書の中でも記載をさせていただこうと思います。

○齋藤第一部長 要するに、将来こういう地下構造物ができますということは、もちろん重要なのですが、今とどう変わるのかということも重要な情報だと思うのですね。それに基づいていろいろ評価がなされていくものではないかと思うので、そこら辺のしっかりした情報を収集して対応を考えていただきたいと思います。

それから、他にもちょっとあるのですが、他の委員の手が挙がっていますので、一旦閉じさせていただいて、堤委員、お願いいたします。

○堤委員 ありがとうございます。

ここまでの様々な議論をお伺いして、温室効果ガスの担当としても要望のコメントを、せつかく事業者さんいらっしゃっているのでコメントを出させていただければと思います。

これまでも申し上げてきたと思うのですが、本事業はこれだけ大規模な事業ですし、東京にとっても日本にとってもシンボリックなものとして、これからの100年にわたって使われていくものであるというふうな認識でおります。

ですので、まだ現在不確定なものも多い段階であると思うのですが、今後事業の計画とか設計が具体化していく中で、長い工事中の温室効果ガスの削減にも努めていただきたいと思っておりますし、施設が供用されても、ゼロエミッションであるとか、温ガスの削減であるとか、あと先ほどの生物・生態系の話にもありました樹木や緑の保全というようなことも含めて、全て温室効果ガスとか、ゼロエミッションにつながっていく話だとも思っておりますので、地球環境保護とか脱炭素社会に向けて積極的な取組みを継続していただきたいと思っております。

その取組みや効果については、先ほど委員の先生方からもコメントがありましたように、今後の図書とか情報公開といったような点でも、継続して情報公開していただくとかなことを要望させていただきますので、よろしくお願いいたします。コメントだけなのですが、けれども以上です。

○事業者 はい、三井不動産です。

貴重な御意見ありがとうございます。まさに15年にわたる長期のプロジェクトではございますが、今後の技術開発等の進展を踏まえて、我々もまさにゼロエミッションという名の下に、技術の導入等を積極的に検討してまいりたいと考えておりますので、貴重な御意見として頂戴いたします。

○堤委員 よろしくお願ひします。

○齋藤第一部会長 ありがとうございます。

他、よろしいでしょうか。

ちょっと続きをさせていただいて、先ほど地下構造物について少し話を聞きましたが、その地下構造物も含め、それから、このいちよう並木に少し気になっているのは日照の話だと思ひますけれども、日照については、評価書案の340ページと、それから341ページに日照に関する情報を集められていて、そのことが日影を受けるイチョウにどういふ影響を及ぼすのかということについては、どのような評価をなされているのかということ、もう一度確認をさせていただきたいのですが、よろしくお願ひします。

○事業者 はい、日建設計から回答させていただきます。

いちよう並木の日照の環境がどうなっているのかということですが、これにつきましては、樹木医から見解をいただいております、日照量の少ない生育環境による複数のイチョウの事例を参考にすると、離隔が今回ぐらいの程度であれば、生育環境への支障はほとんどないといふような推察を、樹木医からいただいております。

○齋藤第一部会長 ありがとうございます。

あと、340ページを見ていると、この影を与えるものが新しく建てられる野球場のものと、それから事務所棟によるものがあると思ひます。

その野球場棟に関する影響は、離隔を加味しての日照だと思ひるので、離隔は関係ないかなと思ひつつも、少なくとも事務所棟の影響も相当あるといふ話でいくと、その離隔といふ話とはちょっと変わってくるのですが、その影響についてはどの程度あると、樹木医からは御助言を得ているといふふうなことでしょうか。

○事業者 一番近いところに野球場棟の外野席と、もう一つ事務所棟も、かなり事務所棟といちよう並木のところと距離があります。

そうしますと、特に事務所棟の高層部分に關しましては、南西側に寄っているので、かなりそのいちよう並木の部分とは離隔があるので、イチョウの生育環境への支障はほとんどないといふような推察は、樹木医からいただいております。

○齋藤第一部会長 そうですか。何かこの影を見たときに、一部、事務所棟の影があるように340ページでは見られるのですが、それは影響がないといふことなんですか。ほとんど気にしなくてもよいといふのが樹木医の判断であるといふことですか。

○事業者 日建設計よりお答えいたします。

この事務所棟の日影は、現状でも伊藤忠商事の本社がございまして、現在でも出ております。高さはこの影の長さになりますので、いちょう並木そのものへの影響というのは、高さが高くなってもあまり関係なく、事務所棟の影響は現状と同等と考えられます。

○齋藤第一部長 分かりました。そうすると、もう野球場棟のこの影の部分の影響だけを基本的には考えればよいというふうな理解でよろしいですか。

○事業者 新たな影響というのはそういうことでございます。ちなみに、その場所の日影に関する影響というのは、高さというよりはむしろその建物なり構造物なりの幅というものが、何時間影響を及ぼすかにかかわってまいりますので、単純に高さがとか、距離も高さと同じでございますので、どちらかという見付けの幅が影響を及ぼすということになりますので、その辺をご理解いただけたらと思います。

○齋藤第一部長 了解いたしました。

確認ですが、これで書かれているように数時間、これは冬至日かなにかと思うので、割合影響の大きい日かなと思うのですが、これぐらいの日影であるから影響がないはずであるというふうな理解でよろしいですね。

○事業者 はい、そのとおりでございます。

○齋藤第一部長 了解いたしました。

それから、昨今いろいろ都民の関心も高く、このいちょう並木の保全に関しては様々な方からご提案があったりとかしていると思います。

こういう保全というものに関していうと、先ほど来、委員の方からも御指摘がありましたように、不確実性が伴うものである。特に生き物ですので、そういった意味で、かつてやられたような保全措置に対するレビューというの、極めて重要なことと思うのですが、新宿御苑トンネルに関して保全がうまくいかなかったのではないかと御指摘もなされているようですが、それに対しては何か情報をお持ちでしょうか。

○事業者 はい、三井不動産です。

そういった情報を、7月の末にNHKで放映されたのは存じ上げております。昨日、記者会見を石川先生がされたという事実は存じ上げてはおりますが、その内容についてはまだ把握できてはおりません。

○齋藤第一部長 分かりました。

いずれにしても生物・生態系は不確実なものだと思いますので、過去の経験に学ぶというところは非常に大きいのではないかなと思いますので、それに限らず、過去の移植であった

り、それから保全措置が最終的にどんな影響を与えたのかということについて、情報を十分に集めていただいて、先ほどの判断のところに反映していただくことをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○事業者 はい、かしこまりました。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

彼はちょっと細かなところで、例えば、本日のプリントの資料の 21 ページのところ、緑地の位置が書かれてあるのですが、こういったところでこの再検討した移植が反映されていないのは何か意味があるのか。要するに、移植の定着率も期待できないから抜いておられるのか、それとも何か意図を持っておられるのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

○事業者 はい、日建設計でございます。

ただその辺の意図はないのですが、このベースとなっている資料につきましては、これは実は前回か前々回提示している資料をベースに、今まで提示している資料をベースに作成しているということでございます。

御指摘のように、今回の伐採本数を減らして移植を増やして、文化交流施設棟の周りに樹林を再生するというのがございますので、評価書に載せるにはそれを反映させた図にさせていただきたいと思います。申し訳ございませんでした。

○齋藤第一部長 分かりました。

細かなところで大変恐縮ですが、非常に真摯にご対応をいただいているいろいろなデータを出していただいて、また評価について、それから環境保全措置もいろいろ考えていただいたということは、非常に嬉しく思うのですが、ただ一方で、資料でそれが反映されていなかったりと、ちょっと区別がつかなかったというところがいろいろあって、こういう公開資料を出すときに、もう少ししっかりと見ていただきたいかんと思うようなところがいくつかございます。

それを一々ここで指摘するのもなんですが、例えば、今日の資料の 5 ページとか 6 ページ、そこに「建設後」というふうにタイトルとしては出ているのですが、これは詳細調査等を反映する前という意味ですよね。

要するに、反映したものにはそのようなものを書いてあるのですが、反映されていないものに関して、それが反映する前のものについてはタイトルが変わってないので、そういったところも、そこで誤解を与えてしまうと非常によろしくない状況になりますので、資料をしつ

かりとつくっていただきたいと思います。

それから、それがいくつかあるのですが、例えば、8ページのところで、「詳細調査を反映」というふうに書いてあるのですが、これは詳細調査のみを反映したという理解でよろしいですか。細かな話ですが、ちょっとその位置づけが分からないので。

○事業者 詳細調査を反映したという形の図になってございます。

○齋藤第一部長 今回の見直しの中で、詳細調査の分以外にも、ある記述だと「詳細調査等」と書いてあって、おそらくそれは新植なんかも含めているのかなと思ったのですが、その区別はどうなっているのでしょうか。

○事業者 確かにおっしゃるとおり、「詳細調査等」という場合には新植も含めてという場合がありますので、おそらく御指摘なのはこの8ページの図にも、正式にはその新植のプロットが入っているので、「詳細調査等を反映」というふうに合わせてほしいのかなと思います。この辺も御指摘を受けてちょっと修正させていただきたいと思います。

○齋藤第一部長 分かりました。

いろいろな表記があるので、非常に資料としては混乱を生じるので、評価書作成のときには是非そこをしっかりとつくっていただいて、誤解のないようなものをお願いしたいと思います。

それから、ほんとにこんなことで時間を取るのもなんだなと思いつつも、文言についても指摘する機会はおそらくそうはないかなと思いますので、一応お話をしておきます。

本日の資料の10ページ目ですが、これは随分前につくられたのではないかと思うのですが、推敲をどこまでされているのかということも気になっているんですが、①の円周道の段落の下から2行目、「広場が生長して生態系を形成する」という表現になってますね。これらも含めて全体の文章がこの10ページ目のところ、私が気になるところで4～5箇所おかしい表現があるのです。

そういうところは、これを外に出す文章ですので、しっかりと見ていただきたいと思います。ですから、評価書を作成するときには、もう一度推敲をしっかりとしていただければよいかなと思います。これはお願いです。

それから、このちょうど10ページ目のところは、①の円周道路沿道部とか、中央広場周辺①、②として御説明をされているのですが、それがどの図に相当する記載があるものなのかというのが、この中で示されていないので、全体としてこういう配慮をされているということを御説明されているのですが、それが全然伝わってこない。

数ページ後に図は出てくるのですが、その①、②、③という数字とは一致していない
というか出てこないの、数字が記載されていないと思うのですが、そういった意味
も含めて、説明をもう少ししっかりとさせていただきたいと思います。よろしいでしょ
うか。

評価書を作成していただく際には分かりやすく間違いがないようにしっかりと見て
いただいて、これまで真摯に対応していただいていますので、それがアピールできる
ように、是非評価書のほうをしっかりとつくっていただきたいと思います。

そこが理解がし難いようなものだと、せっかく環境への保全措置を考え、そして対
応しようとしていることが伝わらないのは、もったいないことですので、是非そうい
ったことはやっていただきたいかなと思います。

また、最後に、今日、特に横田委員からいろいろ出ていましたが、環境の影響をで
きるだけ回避・低減するというのが基本姿勢であるということだと思います。

ですから、根系調査等の利用方法については、そういった回避・低減という立場か
ら環境を考えていくということだと思いますし、今後も生態系を扱う意味では不確実
性が高いものですので、是非情報を開示して議論ができるような場をつくっていただ
きたいと思いますし、また、順応的管理が原則だと思いますので、細かに状態を見て
対応を考えていくということをお願いしたいと思います。

最後に言いたいことを言わせていただきましたが、委員の方から何か御意見はござ
いますでしょうか。

よろしいでしょうか。なければこれにて質疑は終了したいと思います。

事業者の皆さま方、幾度も幾度も御出席いただき、御説明いただきありがとうございます
でした。

あともう1点だけ、ちょっとすみません、お伝えすることを忘れていました。

その不確実性があるということ、我々としても環境影響評価の審議会を担当してい
く中で、やはりこの不確実性に対する担保というのを、どう審議会の中でとっていく
のかということに関しては、非常に難しいものがあるなと思っています。

というのは、やってみないと分からない部分もおそらくあるのでしょうか。だけど、
事前に可能な限りの定量予測をして、その影響を回避するという考え方を大事にして
いくということであると思うのです。

私が申し上げたいのは、先ほど申し上げたとおり、順応的管理ということが極めて

重要だと思いつつ、また判断の妥当性というか、今アセスの中だと、通常これで判断は事業者に委ねられてしまうのですが、これだけ公共性の高いものですので、先ほど根系調査の結果もネットで公開するということでしたが、その結果を踏まえてどのような判断をしたのかということなど、適切なタイミングで都に御報告をいただくと。場合によっては審議会の中で審議をさせていただくようなことも含めて、報告をお願いしたいと思っているのですが、その点についてはいかがでしょうか。

○事業者 三井不動産です。

報告のタイミングという辺りのことはまたご相談させていただきたいと思いますが、今回のこの審議会で終わりというふうには、事業者も考えてはおりませんので、適宜御報告をさせていただきたいと考えております。

○齋藤第一部会長 分かりました。その点是非よろしく願いいたします。

長々と時間いただきました。幾度もお呼び立ていたしまして大変恐縮です。真摯にご対応いただきましてありがとうございました。

これにて質疑を終了したいと思います。

事業者の方は退室していただければと思います。どうもありがとうございました。

(事業者退室)

○齋藤第一部会長 委員の皆様ありがとうございました。今日も時間をちょっと超過してしまっていることをお詫び申し上げます。

本件につきましては、事業者と数多く、通常より多く質疑を重ねてまいりました。その間、特に横田委員から生物・生態系や景観について御意見をいただき、事業者から新たな資料が出てきたということで、大分議論としては深まったのかなと思いますし、環境を保全するということの事業者の意識というものも高まってはきたのかなというか、表明もしていただけたかとは感じています。

一方で、イチョウの保全等が、個人的にはやっぱりイチョウが非常に気になってはいるのですが、保全等につきましては不確実性が非常に伴っていて、本当に保全がなされるのかどうか、それから影響は短期には出ずに長期にじわじわと影響は出てくるものかと。移植だと短期に出てくるのですが、何か構造物をつくったり何か工事をしたときというのは、その影響が時間とともに現れてくることもある。

そういった不確実性、そうすると何が原因なのかというのを見えなくなってくる。そうい

った不確実性もある。

そういったところもあるので、そうした状態で環境影響評価を次の段階に進むのかということに関しては、異論もあるかもしれないのですが、ただ事業者も事業の進展に伴って環境保全措置もしっかりと具体化するという、それからその情報公開をするということ、可能な限り都へも報告していただくということです。

ですので、その進捗状況がしっかりなされているのか、管理がなされているのかということ、しっかりと我々が、都民とともに注視していくということを前提に、総括の審議に移りたいと思いますが、皆さん、そのような理解でよろしいでしょうか。

○柳会長 はい。

○齋藤第一部会長 それでは、総括審議に入りたいと思いますが、何か御意見等はございますか。柳会長から手が挙がっておりますので、柳会長、お願いします。

○柳会長 1点提案ですが、よろしいでしょうか。

各委員からも指摘があったところではありますが、本事業の計画地は豊かな自然環境と様々なスポーツ施設が調和している場所であり、創建100年にも及ぶ歴史的にも重要な場所となっております。

また、本事業を進めるに当たっては、樹木の伐採に関するだけでなく、多くの御意見が都民の皆さまから表明されております。また、これまで審議会においても審議を重ねる中で様々な懸念が指摘されました。

そうしたことから、先ほど齋藤部会長からも指摘がありましたが、事業の実施に当たっては、事業計画の情報の透明性や環境保全の徹底などが、極めて重要だと考えられます。そのため、通常は各項目の答申案を示して審議するということではありますが、本事業を総括する形での意見も付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○齋藤第一部会長 会長からご提案をいただきました。部会長としては賛成したいと思うのですが、よろしいでしょうか。

それでは、会長のご提案を反映させていただきたいと思います。ありがとうございました。

時間が押していますけれども、改めて5月19日の審議について振り返りたいと思いますが、騒音・振動1件、生物・生態系4件、生物・生態系 景観 共通2件、風環境1件、景観3件、自然との触れ合い活動の場1件が、総括審議事項として挙げられています。

また、ただいまも会長からご提案がありましたので、総括審議事項に1つ加えたいと思いますが、他に何か加えることがありましたら、ご提案をいただきたいと思います。

荒井委員、お願いいたします。

○荒井委員 はい、先ほど伐採樹木のことに関して廃棄物の担当から事業者への質問を行いまして、その点を踏まえまして廃棄物に関する総括審議に付け加えていただきたいと思いますと思っております。よろしく申し上げます。

○齋藤第一部長 どうもありがとうございました。

極めて重要な内容だと思いますので、廃棄物についても総括審議事項に挙げたいと思います。ありがとうございました。

それでは、その件も含めまして総括審議事項について事務局からのご説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○藤本政策調整担当部長 それでは、資料 1-1 を御覧ください。5/19 の審議で総括審議事項へ取り上げることにしたのものには、取扱欄に「総括審議事項へ」と記載しております。

1 つ目が 4 ページ騒音・振動の番号 2 です。供用後の騒音について、スタジアム高さでの騒音の評価について質疑がありました。

2 つ目が、5 ページから 11 ページまで、生物・生態系の番号 1 です。樹林生態系に関して、緑のネットワークや生態系への配慮について質疑がございました。

3 つ目が、11 ページから 19 ページまで、生物・生態系の番号 2 です。樹木の残置、移植、伐採の本数や、本数算定の根拠、伐採を減らすための考え方等について審議がございました。

4 つ目は、19 ページから 22 ページまで、生物・生態系の番号 3 です。いちよう並木に関して野球場棟の建設による根への影響、根系調査の考え方、保全のための具体的な措置等について質疑がありました。

5 つ目が、24 ページ、風環境の番号 3 です。建設後の対策や事後調査の重要性について指摘がございました。

6 つ目、7 つ目が 25 ページから 32 ページまで、景観の番号 3 と番号 5 です。野球場によるいちよう並木の景観への影響や、絵画館前の広場からラグビー場を見たときの景観等について質疑がありました。

8 つ目が 34 ページから 35 ページまで、自然との触れ合い活動の場の番号 2 です。工事中の動線確保等について質疑がございました。

資料 1-1 に記載のある事項は以上ですが、最後に本日、荒井委員から御意見のありました廃棄物が加わります。

続きまして 40 ページ、資料 1-2 を御覧ください。

○事務局 事務局から資料 1-2 を説明させていただきます。40 ページの資料 1-2 です。

「(仮称) 神宮外苑地区市街地再開発事業」に係る環境影響評価書案について (案)

第1 審議経過

本審議会では、令和3年8月20日に「(仮称) 神宮外苑地区市街地再開発事業」環境影響評価書案(以下「評価書案」という。)について諮問されて以降、部会における質疑及び審議を重ね、都民及び事業段階関係区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

付表は画面に表示されております。

戻りまして、

第2 審議結果

本事業の評価書案における調査、予測及び評価は、おおむね「東京都環境影響評価技術指針」に従って行われたものであると認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、関係住民が一層理解しやすいものとなるよう努めるとともに、次に指摘する事項について留意すべきである。

1 総括的事項

本事業が位置する明治神宮外苑は、豊かな自然環境やいちょう並木のビスタ景を有し、国民や競技者がスポーツに親しむ一大拠点であり、創建100年にも及ぶ歴史的にも重要な場所である。

本事業については、都民から、樹木伐採への反対意見をはじめ、先人から継承された環境を失うことへの懸念や、事業計画の十分な周知・公開を求める意見など、多くの懸念が表明されている。

さらに、審議会においても、評価書案に記載された内容に対する根拠の不明瞭さや、都民と事業者との相互不信への懸念が指摘された。

このことから、事業の実施に当たっては、事業計画に関する積極的な情報公開や都民参加に努めること、着工後における環境保全措置の徹底を図るとともに、継続して対策を講じていくことが重要である。

以上のことを踏まえ、環境影響評価書の作成に当たっては、以下に掲げる事項について十

分な配慮を行うべきである。

2 項目別事項

【騒音・振動】

野球場棟の供用に伴う騒音では、球場高さでの予測を行っていないが、球場から近傍住宅までの距離における地上 1.2mの予測では環境基準と同値であり、球場と同じ階層の住居における騒音の影響が懸念されることから、球場高さにおける予測・評価を行うこと。また、予測に当たっては、予測式や予測条件等について詳細に記述すること。

【生物・生態系】

- 1 樹林生態系についての予測・評価において、新宿御苑から赤坂御用地、青山霊園へ連続する緑のネットワークにおける生態系のつながりや、そこで拠点となる緑地の範囲を、評価書において具体的に図示すること。あわせて、植物群落調査等の結果を生態系保全目標の設定に反映し、保全対象とする指標種を定め、土壌を含め、まとまりのある生息環境となる樹林地の保全及び再生の考え方を示すこと。
- 2 施設の解体及び建設・運用に伴う樹林地への影響を回避・最小化し、その保全や適切な育成・管理を実施していくための方針を、保全管理方針として評価書において示すこと。また、作成した保全管理方針に基づき、生物種のモニタリングと併せて、順応的管理を行い、神宮外苑の豊かな自然環境を将来にわたり保全すること。
- 3 既存樹木の健全度や移植の可能性に関する詳細調査結果をデータと合わせて説明し、その結果を反映して、既存樹木への影響を回避・最小化するための考え方を示し、残置、移植、伐採等変化の程度について予測・評価を見直すとともに、移植木を活用した樹林地の再生計画を作成すること。あわせて、移植の限界性を踏まえ、移植時期、方法、植栽基盤確保の考え方、並びに仮移植期間における養生計画、養生期間中のモニタリング結果を反映した本移植計画等、移植の確実性を高めるための措置を計画の深度化に応じ、具体的に示すこと。さらに、各施設の設計及び施工計画の詳細を決定していく中で、施工方法の工夫や樹木の保全に配慮した仕様とするなど、より一層伐採の回避を図ること。
これらの実施をもって神宮外苑の豊かな自然環境の質の保全に努めること。
- 4 神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺の緑のまとまりについて、ラグビー場棟の建設、及び計画区域に隣接する絵画館前広場の整備計画の影響を勘案し、生物・生態系の保全エリアを設定すること。設定した保全エリアの拡大について、施設設計の深度化と併せて継続

的に検討し、可能な限り保全エリアを拡大するとともに、ラグビー場の配置・構造等の詳細設計において生物・生態系への影響を回避・最小化する措置を具体化すること。

【生物・生態系】【景観】 共通

- 1 保全するいちよう並木に近接して野球場棟の建設が計画され、いちよう並木への影響が懸念されていることから、野球場棟の実設計前に専門家によるいちよう並木の根系調査を行うこと。また、その結果を説明するとともに、調査結果を踏まえ、建築計画及び施工計画における環境保全のための措置を具体的に示し、確実に実施すること。特に、いちようの健全な生育へ影響を与えるような根が複数確認された場合は、根を避けるため野球場棟の該当箇所の壁面後退等施設計画の工夫を行うこと。さらに、工事の施行中及び完了後の一定期間にわたり、いちよう並木のモニタリングを実施し、状況に応じた環境保全のための措置を継続することで、将来にわたりいちよう並木を健全に育成すること。
- 2 保全するいちよう並木について、野球場棟のネットフェンスやスコアボード、照明やひさし等構築物による、日照及び景観への影響が懸念されることから、構築物の配置や素材・色彩の決定に当たっては十分配慮し、影響の低減に努めること。

【風環境】

風環境の予測結果では、事務所棟南側をはじめ、現況からの変化が一定程度生じる地点が多く見られることから、環境保全のための措置を徹底するとともに、事後調査において調査地点を適切に選定した上で、その効果の確認を行い、必要に応じて対策を講じること。

【景観】

- 1 野球場棟がいちよう並木の景観に与える影響について、最も野球場が視認できる時期における把握が必要であることから、適切な地点からの落葉期を想定した予測・評価を追加で示すとともに、環境保全のための措置を徹底し、影響の低減に努めること。
- 2 絵画館前広場からの眺望の変化の程度について、計画区域に隣接する絵画館前広場の整備計画を反映した予測・評価を評価書において示すこと。
- 3 神宮外苑広場（建国記念文庫）周辺における圧迫感の変化の程度について予測・評価すること。また、ラグビー場棟の形状やデザインの決定に当たっては、圧迫感や閉鎖性を緩和するための措置を具体的に示し、実施すること。

【自然との触れ合い活動の場】

神宮外苑は、日常的に多くの人々に自然との触れ合い活動の場として利用されているが、

本事業の施行により長期間にわたり利用制限が想定されることから、予測・評価において工事の段階ごとの動線や広場空間の確保計画等について、みどりの質の観点も含めた具体的な環境保全のための措置を評価書において示すこと。また、その措置を徹底し、影響の低減に努めること。

【廃棄物】

本事業では、建築物の解体及び施設の建設に伴い既存樹木の伐採が計画され、相当量の木くず等の発生が考えられるが、伐採樹木に係る廃棄物についての予測・評価が行われていないことから、評価書において、伐採樹木に係る廃棄物発生量、再資源化量及び再資源化の方法（ストックヤードの確保を含む）について予測・評価を示すこと。

以上となります。

○齋藤第一部長 どうもありがとうございました。

それでは、各担当委員からコメントいただきたいと思いますが、高橋委員が欠席されていますので、事務局から代読をお願いできますか。

○藤本政策調整担当部長 はい、高橋委員からのコメントでございます。

本事業では、野球場棟の建設が計画されておりますが、野球場棟の供用に伴う騒音は野球場棟から近傍住宅までの距離において、地上 1.2mの高さで予測評価を行っており、その値は環境基準と同値と予測されております。

しかし、野球場棟と同じ階層における予測評価を行っておらず、その高さでは環境基準値を超える可能性があります。そのことから野球場棟の供用に伴う騒音において、野球場棟の高さと同じ高さでの予測評価を求めることとしました。

以上でございます。

○齋藤第一部長 ありがとうございました。時間も押しておりますので、数多くありますので、特にコメントがあればということでお伺いしたいと思いますが、御担当の委員、何かコメントのある方がおられたら御発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

荒井委員、よろしく願いいたします。

○荒井委員 これまでの審議の中で廃棄物の件が上がっていませんでしたが、先ほどの会議の中でありましたとおり、伐採樹木の扱いについては、今手元にある技術指針を確認したところ、森林、樹林地、緑地等の樹木の伐採が予定される場合には、きちんと予測・評価を行うということが書いてありますので、その点を最後になってしまいましたが、総括審議後に加えていただけてよかったかなと思います。

また、ストックヤードの確保についても、少し踏み込んだメッセージになりますが、やはり扱う樹木、伐採された樹木を大切にきちんと管理するということには、やっぱりストックヤードが必要になりますので、そういったところも含めて再資源化の方法を予測・評価するという内容になりましたので、是非これで取り扱っていただきたいと思います。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。廃棄物についてはそういうご趣旨であるということでした。

他はいかがですか。特にコメントがあればお伺いしますが、よろしいでしょうか。

横田委員、お願いします。

○横田委員 はい、ありがとうございます。

本日の議論を踏まえた答申になっていると思います。生物・生態系というのは、アセスの項目ですと、東京都の場合一体になっていますけれども、調査、予測・評価で見ますと、生物という項目と生態系という項目があって、都市域ではなかなか区分しにくい部分もあって、共通的な部分もあるのですけれども、できれば今後モニタリングなんかを考えますと、これは生物種であったり、個体であったりするものは生物として位置づけていくといったことであったり、生態系のつながりですと、まとまりのようなことは生態系としてモニタリングしていくということを、分かりやすくお伝えいただきたいなと思います。

特に事業者資料の中で、「生物生態系」と1文字になっているケースが散見されまして、「・」がなかったので、そういった概念の整理が重要かというのが1点です。

もう一つは、先ほど来、今後の調査によって改善するという話がありました。

今後の調査というのは、具体的には、根系調査であったり、あるいは植物群落調査というの也被まれています。

ただ、これが調査結果そのものをお示しいただくという話になってしまうと、これは事後調査の話で終わってしまうのですけれども、やはり、保全措置そのものの見直しのプロセスが見える化しないといけなくて、それはやはり変更の過程を示していただくことが必要なのかなと思います。

そういったものは変更届という手続きで実施し得るということは、事務局からお伺いしておりますので、やはり保全措置を進化させるプロセスのやり方がきちんと伝わるように、この答申を事業者の方にお伝えいただきたいなと思います。

○齋藤第一部長 貴重な御意見をありがとうございました。

それでは、玄委員、お願いいたします。

○玄委員 風環境を担当している玄です。

本日紹介がありました植栽計画に伴って環境への影響も変化されると思ひまして、本日確認できたのは、植栽計画に伴って風環境評価を再度行うことになりました。

なので、ここで書いてあった内容については、具体的にみると少し前回に比べて進化があるかもしれませんが、まず建設後の保全対策を徹底していただきたいことと、あとは事後調査においても適切に対応していただきたいと思っています。

なので、詳細なコメントは再度の結果が出た後にできればと思っています。よろしくお願いいたします。

○齋藤第一部長 どうもありがとうございました。

他はいかがでしょう。何かございますでしょうか。

横田委員、どうぞ。

○横田委員 すみません。一つ付け加えるのを忘れておりました。

景観のところの1点目ですが、野球場棟のいちよう並木のビスタ景観への影響に関して、「適切な地点から」というのは、おそらく最初に、当初離れたところでの圧迫感のような形で天空を撮られていたのを、少し寄ったところでの影響に関して把握するというような観点が、主のように見えます。

しかし、やはりビスタ景観に対する影響というのも非常に懸念されますので、いちよう並木の景観というものが、単に野球場の圧迫感だけでなく、そのビスタ景観という観点も含むということも、是非お伝えていただきたいと思っています。

○齋藤第一部長 ありがとうございます。

場合によっては文言を追加しておきますか。

○横田委員 景観というところの修飾語を付け加えてもいいのかもしれないですね。「ビスタ景観など」というような。

○齋藤第一部長 分かりました。了解いたしました。

今の横田委員の意見に対して、特に反対はおそらくないかなと思いますので、事務局と文言を確認していただいて、必要に応じて修正をしていただければよいかと思っています。ありがとうございました。

他はいかがでしょう。何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、特に御発言がないようですので、総括審議を終了したいと思います。

ただいまの説明した内容、それから1点修正があるかもしれませんが、次回の総会で報告したいと思います。ありがとうございました。

最後に「その他」ですが、何か皆様方からございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

特に御発言がないようですので、これにて第一部会を終了したいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。

傍聴人の方は退出ボタンを押して退出をしてください。

(傍聴人退室)

(午後0時34分閉会)